

近畿印刷産業機材協同組合 2014年 新年互礼会



## 「甲午」の年、 大胆な手法で経営を

近畿印刷産業機材協同組合(加貫順三理事長)は1月30日、大阪・北区の帝国ホテル大阪において新年互礼会を開催。組合員らおよそ70名が駆けつけ、新年の門出を共に祝った。また当日は互礼会に先立ち、恒例の新春講演会も併催され、今回は、(株)アイウィルの代表取締役専務兼主席講師である畠山裕介氏を講師に迎え、「日本の神話に親しむ」と題して、およそ1時間半にわたる講演が行われた。

互礼会の冒頭、新年の挨拶に立った加貫理事長は、今年の干支「甲午」について「甲午という文字が表わす意味を考えると、前年までに胎動してきた革新への動きが、その殻を破って大きく出現する年であるが、その変化の動きに反対する勢力も内側から突き上げてくる年になり、その陰の勢力の対処法次第では混乱の幕開けになるが、上手にかみ合えば、従来にない大変新しい時代のスタートにもなる」とした上で、「従来の延長線上での改革では太刀打ちできない非常に大きな時代変革の年」と位置付け、「我々も旧来にとらわれない大胆な手法で経営を行っていきたいものだ」と述べた。

さらに加貫理事長は、「彼を知り己を知れば百戦殆うからず」という孫子の兵法の中でもとくに有名な言葉を紹介。「グローバル化した現代、英語を習得することや諸外国を見聞することも必要だろう。しかし、日本人として、正しい日本語を話すことや日本の歴史を知ることをおろそかにしては何の意味もない。先ほどの

1月30日、帝国ホテル大阪 組合員らおよそ70名が出席



▲声高らかに乾杯!



▲講師の畠山氏

セミナーで畠山先生がお話し下さったように、古事記などの神話を通して、日本の歴史に興味と関心を深め、自分たちが日本人であることへの自信と誇りを持った人物こそが、海外の方々からも信頼・評価され、結果成功につながるのではないだろうか」と問いかけた。

一方、「生産性向上設備投資促進税制」についてもふれ、「そのひとつに年平均1%以上生産性が向上する最新モデル設備を導入すれば、即時償却か税額控除を受けられるというものがある。その要件確認も経済産業省ではなく当協同組合の上部団体である日本印刷産業機械工業会が行う。工業会では、「確認承認は積極的に行う」としており、組合



▲講演会の様子

員自体の設備導入だけでなく、ユーザー様の設備導入を促す手段としても利用できる」と説明。同制度の積極的な利用および説明会への参加を促した。

この後、上野耕治副理事長による乾杯発声で祝宴へと移り、新年を祝う歓談が繰り広げられた後、最後は弓倉清副理事長による閉会の辞でお開きとなった。